



岩室小「書き初め大会」より



■後列左から：たなかりゆうくん、いとうあけのちゃん、いしかわもえこちゃん
■前列左から：たけうちななちゃん、やまだかなえちゃん、おきのまどかちゃん、おきのとしあきくん

わたしの自信作

■和納保育園 五歳児
作品名：鬼は外福は内



今月のなかよし広場は
和納第2保育園の
様子からご紹介します。

年が明け、元気に集まってくれたお友だちは、一目散に遊戯場へ。リズムを感じながら踊ったり、在園児と交わりながら動く姿が一層たくましくなってきました。元気いっぱい遊んだ後は、今日のメイン「手作りオモチャ」に挑戦。親子で力を合わせ「ポンポン風船」を作りました。できあがった風船を手にとり遊んだり、野球のボールにして遊んだり普段のオモチャとは一味違う手作りオモチャに大喜びの様子。帰るときには、宝物のようにかかえて帰りました。

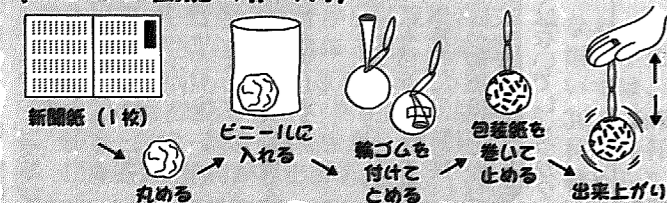
オモチャについて

- いろいろなオモチャがありますが、手作りの良さを活かし「手、言葉、そして心」でふれあうことのできるオモチャを親子で作ってみてはいかがでしょうか。きっと、どんな高価なオモチャよりも、価値のあるものとなるでしょう。
- 年齢にふさわしいものを選んであげることが大切です。また、壊れたら直して使おうとする気持ちも育て、お父さん、お母さんは「オモチャドクター」となって、大切に使う心を育てることも親の役割です。

今月の子育てアドバイス

「親子の間でも素直に“ありがとう”“ごめんネ”を。」
言葉は心を表す大切なものです。夫婦でも家族間でも、相手を尊重した言葉を素直に口に出してほしいものです。もちろん「あいさつ」は言うまでもありませんが、...

〈ポンポン風船の作り方〉

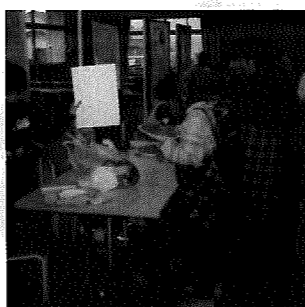


岩室産大豆実感！

～和納小4年生が大豆パーティーで総括～

昨年12月15日、和納小4年生が『総合的な学習の時間』で取り組んできた大豆の研究を、『大豆レンジャーパーティー』で楽しく締めくくりました。

4年生の児童たちは、これまで、農村地域生活アドバイザーの皆さんの協力を得て、大豆の播種から収穫、豆腐づくりまで岩室に育つ大豆について勉強してきました。その半年にわたる成果を知っていただくようと、PTAや先生方、協力していただいたアドバイザーの皆さんを招待し、わなみホールで大豆料理パーティーを開きました。湯葉や、おから料理、児童考案の豆腐プリンなど、各班趣向をこらして研究成果を発表すると、招かれた方々は「大豆のうまみを再確認しました」など、口々に地産大豆を称賛していました。また、児童の一人は「家ではあまり食べなかったけど、作って見たらおいしかった。もっと給食にでたらいいと思います」と話していました。



▲会場ぎっしりに107名の出席者

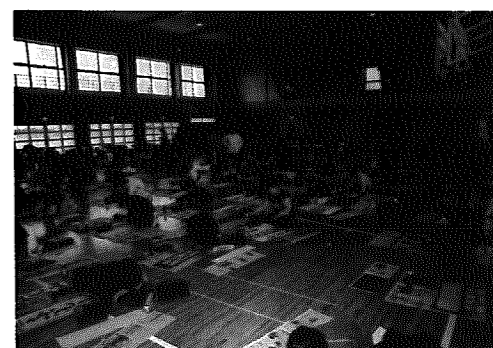
「明るい年に」と願い107名が出席
～悪天候の中、新年祝賀会開催～

今年も、新しい年の出発を祝い、村政の活力ある発展と未来を展望し、各団体の連帯と協調を深めていただくことと、先月4日、静閑荘で新年祝賀会が開催され、団体の代表者や区長ら107名が出席しました。冒頭あいさつに立った佐藤村長は、平成14年に予定されている事業を説明した後「悪化している財政状況の中、徹底した経常経費の削減に取り組み、機構改革を実施し、より一層効率的な行財政運営に努めたい」として、協力を求めました。

一筆一筆に心を込めて

～両小学校で新年恒例の「書き初め大会」～

新春恒例の書き初め大会が村内両小学校で行われました。低学年は硬筆、3年生以上は毛筆と、それぞれ冬休みに練習した成果を披露しようと、岩室小学校では、先月10日に開催されました。3年生から6年生は体育館で、1、2年生は教室で、それぞれ張り詰めた雰囲気の中、真剣なまなざしで取り組む児童たち。上手にできた？と聞いてみると、「まあまあです」と笑顔で話す児童は、皆さん一様に、そのできばえに満足している様子でした。



▲真剣に筆をすすめる児童たち



▲いっしょになって飾り付け

園児とお年寄りが「藪玉」づくりに挑戦

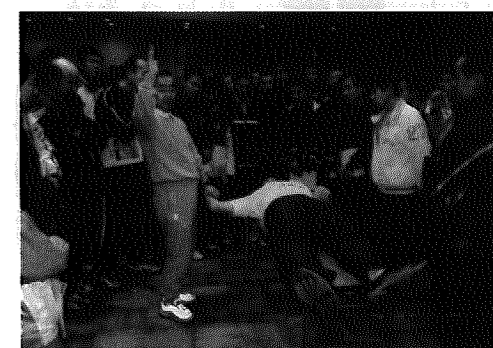
～中央保育園児がデイサービスで交流～

先月16日、デイサービスセンターで、佐藤正さん(新谷)を講師に招き、中央保育園の園児(5歳児)と同センター利用者のお年寄りが藪玉づくりに挑戦しました。昨年に続き2回目となった当日は、藪玉について佐藤さんからお話を聞いた後、早速飾り付けに入りました。お年寄りに手ほどきを受けながら、「ミズキ」の枝に、モチや鯛、小判等の飾り物を次々に飾りつけていくと、枝に花が咲いたように色鮮やかな藪玉があつという間にできあがりました。

少年野球指導者講習会

～「選手の健康と安全」は指導者の責任～

先月20日、公民館講堂で、岩室村、吉田町、弥彦村の少年野球指導者ら約80名を対象に講習会が開催されました。講習会では、県立がんセンターの瀨川医師(整形外科医長)から、少年野球による障害の状況と治療法が紹介された後、WCBF(世界少年野球推進財団)専属トレーナーの尾山氏により、正しいコンディショニング法とトレーニング法の実技講習が行われ、参加した指導者は、ストレッチや筋トレの重要性を体で再認識していました。



▲元巨人軍トレーナー尾山氏を囲んで